

## 第636回建設技術講習会 現場研修事業の概要

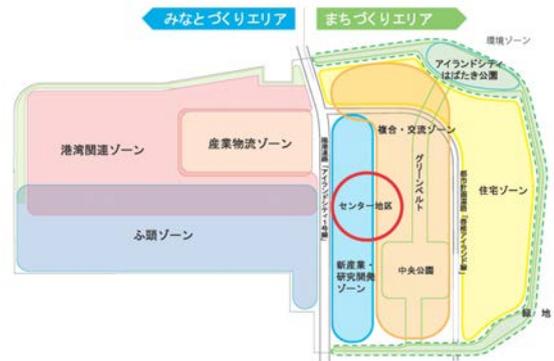
### 1. アイランドシティ整備事業

福岡市東区みなと香椎

アイランドシティは博多港の港湾機能強化を目的に、大水深の航路整備で生じる浚渫土砂などを活用して誕生した都市空間です。この貴重な空間を活用し、港湾機能の強化、快適な都市空間の形成、新しい産業の集積拠点の形成、東部地域の交通体系の整備の4つの目的を掲げて、福岡市の将来をリードする先進的モデル都市づくりを進めています。アイランドシティは、臨港道路「アイランドシティ1号線」をはさんで、西側を「みなとづくりエリア」、東側を「まちづくりエリア」として、整備を実施しています。

博多港国際コンテナターミナルでは、神戸以西では最大級となる水深14~15mの岸壁を整備することにより、5万トン級のコンテナ船1隻と6万トン級のコンテナ船2隻が同時に接岸可能です。また、九州最大・高規格のコンテナクレーンや、国内初となる8列対応の門型移動クレーン(トランスファークレーン)を導入し最新鋭の設備を備えています。

ソフト面でも、24時間フルオープン化の実現や、港湾施設利用におけるトータルコストの低廉化、さらには、IT技術を積極的に活用したフレキシブルで迅速な情報提供を図るなど、サービスの充実を図り、使いやすい港を目指しています。



### 2. 主要地方道筑紫野古賀線 道路改良事業

筑紫野市大字永岡~古賀市花見東

主要地方道筑紫野古賀線は、筑紫野市から古賀市の国道3号につながる延長約33kmの道路で、主要地方道久留米筑紫野線とつながる福岡、久留米の両都市圏を相互に連絡する広域的な交通を担う県下でも重要な路線です。また、国道3号のバイパス的な役割を果たしており、九州自動車道の古賀ICから筑紫野ICの区間とほぼ併走しているため、九州道の渋滞・閉鎖時の迂回路ともなっています。

この路線の交通量は、多いところで3万5千台/日を超え、各所で慢性的な渋滞が発生しています。特に渋滞の著しい箇所は、粕屋町の大隈跨道橋交差点、門松交差点及び須恵町の須恵中央交差点で、主要渋滞ポイントに位置付けられています。慢性的な渋滞は2車線のため交通量に対応できていないのが原因となっており、県では、安全で円滑な交通環境の実現を図るため、順次4車線化の整備を進めています。現在では33kmのうち約13kmの4車線整備が完了しています。



### 3. 有明海沿岸道路 筑後川橋下部工事

大川市大字小保~大字大野島

有明海沿岸道路は、有明海沿岸地域の「陸海空の広域交通ネットワーク」を形成し、「未来を創る」自動車専用道路です。平成20年3月の初開通以降、現在までに全体(福岡県内)の約7割にあたる19.3kmが暫定2車線で開通しています。平成29年9月16日には、有明海沿岸道路の徳益IC~柳川西IC間4.5kmが開通予定。これにより、今まで一般道を介して接続していた福岡県内沿線4市の大牟田市、みやま市、柳川市、大川市が自動車専用道路で直結します。

大川東IC~諸富IC間には、筑後川と早津江川が存在するため、これに架かる筑後川橋(仮称)・早津江川橋(仮称)について「有明海沿岸道路 筑後川・早津江川橋梁設計検討委員会」を設置し、周辺環境等を十分に考慮した橋梁形式や設計施工の課題について検討し、平成26年10月にとりまとめました。これを踏まえ、平成27年1月に筑後川橋の下部工に着工したところです。

